



(題字 時澤 貢 学長)

第422号

(平成12年 2月号)

2月のトピックス

◇9日 教務委員会・教養教育委員会が「多様な学生像に対応した教育システムの確立について」を答申



△能登谷、小澤両委員長から時澤学長に答申を提出
(2月9日 学長室)

◇25日 平成12年度入学者選抜個別学力検査(前期日程)を実施



△試験終了後、帰路につく受験生
(2月25日黒田講堂前)

目 次

関係法令	3	職員消息	
諸 会 議	3	◆ 住所変更	16
		◆ 訃報	16
学 事		主 要 行 事	16
◆ 教務委員会・教養教育委員会が「多様な学生像に対応した教育システムの確立について」を答申	5		
◆ 平成12年度入学者選抜個別学力検査（前期日程）を実施	8		
人 事 異 動	11		
学 内 諸 報			
◆ 産官学懇談会を開催	12		
◆ 第3回学術シンポジウムを開催	13		
◆ セクシュアル・ハラスメント相談員研修を実施	13		
◆ 退官記念最終講義を実施	14		
◆ インターンシップ推進協議会を開催	14		
◆ 海外渡航者	15		



△前夜の雪がはりついたキャンパスの木々
(2月25日事務局前庭)



△受付を待つ受験生（経済学部検査場前）

関 係 法 令

(政 令)

- 国家公務員法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備等に関する政令(30)(平成12. 2. 14 官報号外第25号)
- 予算決算及び会計令等の一部を改正する政令(32)(同上)
- 行政機関の保有する情報の公開に関する法律の施行期日を定める政令(40)(官報号外第27号)
- 行政機関の保有する情報の公開に関する法律施行令(41)(同上)

(省 令)

- 国家公務員共済組合法施行規則の一部を改正する省令(大蔵6)(平成12. 2. 28 官報号外第35号)
- 図書館法施行規則の一部を改正する省令(文部6)(平成12. 2. 29 官報第2818号)
- 博物館法施行規則の一部を改正する省令(同7)(同上)

(規 則)

- 人事院規則9-49(調整手当)の一部を改正する人事院規則(人事院9-49-13)(平成12. 2. 16 官報第2809号)

(告 示)

- 専門士の称号の付与に関し文部大臣が専門士と称することができる専修学校専門課程として個別に認めた件(文部15)(平成12. 2. 8 官報号外第22号)
- 専門士の称号の付与に関し文部大臣が個別に認めた専門士と称することができる専修学校専門課程についてその名称を変更した件(同16, 17)(同上)
- 専門士の称号の付与に関し文部大臣が個別に認めた専門士と称することができる専修学校専門課程を廃止した件(同18)(同上)
- 平成12年度大学入学資格検定の施行期日等を定める件(同20)(平成12. 2. 24 官報第2815号)

諸 会 議

第7回学生生活協議会(2月1日)

(審議事項)

- (1) 全学委員会の整理統合計画に基づく学生の厚生補導・福利厚生関係委員会について
- (2) その他

第2回教務委員会・教養教育委員会合同委員会(2月1日)

(審議事項)

- (1) 「多様な学生像に対応した教育システムの確立について」(答申案)について
- (2) その他

第8回教養教育委員会(2月1日)

(審議事項)

- (1) 平成12年度以降の教養教育実施体制等について
- (2) 将来計画委員会中間まとめ(教養教育)に係る検討

の進め方について

- (3) その他

第1回保健管理センター委員会(2月2日)

(審議事項)

- (1) 保健管理センター所長候補者の推薦について
- (2) 教官人事について
- (3) その他

第2回生涯学習教育研究センター運営委員会(2月3日)

(審議事項)

- (1) 次期生涯学習教育研究センター長の選考について
- (2) その他

第17回将来計画委員会(2月3日)

(審議事項)

- (1) 本学の将来構想・特色について
- (2) その他

第4回入学試験実施委員会（2月8日）

（審議事項）

- (1) 入学試験実施委員会採点専門委員会委員について
- (2) 平成12年度入学者選抜学力検査実施要項及び整理細目について
- (3) 平成12年度入学者選抜学力検査の会場について
- (4) その他

(7) 平成12年度大学祭に伴う休業日について

(8) その他

第18回将来計画委員会（2月18日）

（審議事項）

- (1) 本学の将来構想・特色について
- (2) その他

第11回事務協議会（2月15日）

（協議事項）

事務協議会の構成員について

第3回就職連絡会議（2月21日）

（審議事項）

- (1) 全学委員会の整理統合計画に基づく就職連絡会議の見直しについて
- (2) その他

体育施設委員会及び体育施設運営協議会の合同会議

（2月15日）

（審議事項）

- (1) 全学委員会の整理統合計画に基づく学生の厚生補導・福利厚生関係委員会について
- (2) その他

第5回国際交流会館運営委員会（2月22日）

（審議事項）

- (1) 入居者（平成12年4月）の選考について
- (2) その他

第3回学園ニュース編集委員会（2月16日）

（審議事項）

- (1) 富山大学学園ニュース編集委員会要項の廃止及び富山大学広報委員会規則（案）の確認について
- (2) 学園ニュース第102号の発行について
- (3) その他

第122回構内交通対策委員会（2月24日）

（審議事項）

- (1) 構内交通整理経費の削減策について
- (2) 駐車可能区域の見直しについて
- (3) その他

第5回部局長会議（2月18日）

（議 題）

- (1) 富山第一銀行奨学財団からの研究助成について
- (2) 校章について
- (3) 地方都市に位置する国立大学の意義に関する研修会について
- (4) その他

第2回保健管理センター委員会（2月24日）

（審議事項）

- (1) 保健管理センター教官の人事について
- (2) その他

第17回評議会（臨時）（2月28日）

（審議事項）

- (1) 富山大学部局長会議規則の一部改正について
- (2) 各種委員会の整理統合に伴う委員会規則の制定について

第16回評議会（2月18日）

（審議事項）

- (1) 副学長候補者について
- (2) 評議員について
- (3) 富山大学部局長会議規則の一部改正について
- (4) 富山大学国際交流活性化推進事業資金規則の制定について
- (5) 各種委員会の整理統合に伴う委員会規則の制定について
- (6) 評議会審議事項の整理について

第19回将来計画委員会（2月28日）

（審議事項）

- (1) 本学の将来構想・特色について
- (2) その他

学

事

教務委員会・教養教育委員会が「多様な学生像に対応した教育システムの確立について」を答申

－ 2月9日 能登谷、小澤両委員長から時澤学長に提出－

教務委員会と教養教育委員会では、平成10年10月8日に学長から「多様な学生像に対応した教育システムの確立について」成案をまとめるよう諮問されたことを受け、臨時の合同検討委員会である「大学教育検討委員会」（能登谷学長補佐を座長とし、各学部教務委員長ら9名で構成）を平成11年5月17日に設置し、成案のとりまとめを行ってきました。

このほど大学教育検討委員会の14回にわたる精力的な検討を経て、答申案がとりまとめられ、2月1日開催の教務委員会と教養教育委員会の合同委員会において最終

的に審議承認し、2月9日学長に答申として提出されました。

当日、学長室において、能登谷教務委員会委員長並びに小澤教養教育委員会委員長から答申を受けた時澤学長からは「この答申を今後の本学教育システム改革の指針とし、全学の理解を得ながら着実に改革を実施していきたい」旨挨拶があり、併せて答申のとりまとめにあたった各委員及び関係教職員に対して謝辞がありました。

なお、答申の全文は次のとおりです。

多様な学生像に対応した教育システムの確立について（答申）

- I. はじめに
- － 1. 大学教育検討委員会の設置と審議内容
- II. 共通認識
- － 2. 多様性
- － 3. 「動機付け」の重視
- III. 具体的な提案
- － 4. 提案の基本姿勢
- － 5. 特に1年次での指導体制
- － 6. 「シラバス」
- － 7. 「FD」
- － 8. 転学科、転学部、他学部履修
- － 9. 就職指導
- IV. －10. 残された問題

I. はじめに

1. 教務委員会と教養教育委員会は、富山大学長より平成10年10月8日付で「多様な学生像に対応した教育システムの確立について」諮問された。平成11年3月16日開催の教務委員会の審議を経て、教務委員会と教養教育委員会の合同ワーキンググループが発足した。当初「合同検討委員会」という名称であったが、同年6月7日開催の第2回委員会において「大学教育検討委員会」に変更された。

大学教育検討委員会は、「教育目標」については、「本学の教育目標」（平成5年『富山大学教育課程編成方針』）と「富山大学の理念」（平成11年3月19日評議会決定）を検討し、前者の掲げるところは依然として有効であり、後者もなおその延長線上にあることを確

認した。都合14回にわたって開催された同委員会が審議したことの中心は、教養教育と学部教育に共通に関わる部分、特に1年次における指導体制、「シラバス」^{※1}、「ファカルティ－・デベロップメント（以下、FD）」^{※2}の3点であった。

教務委員会と教養教育委員会は大学教育検討委員会の審議の結果を受けて、以下を富山大学長に答申することとする。

II. 共通認識

2. 学生の「多様性」は、①就学目的、②履修歴、③個性、適性の3点について捉えられる。それぞれに関しては以下の認識を共有しうる。

①については、積極的な目的を持つ場合と消極的な目的を持つ（あるいは目的を持たない）場合とに分けられ、後者に対しては積極的な目的が獲得できるように、また前者に対しては目的を確実に達成できるよう指導しなければならない。

※1 「シラバス：各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されてお

り、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。」(大学審議会【答申】137頁)

※2 「ファカルティー・デベロップメント

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。FDと略して称されることもある。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。」(大学審議会【答申】138頁)

②については、履修歴の多様化は、大学入学以前の既修科目の多様化や学力の多様化をもたらしている。そのことが学生にとっては授業履修上の諸困難の要因ともなっている。また、教員にとっては授業の一定水準を維持することが困難になるという状況を生んでいる。

③については、学生の個性や適性を尊重しつつ指導すべきこと、その際、個性や適性を固定的に捉えるのではなく、学生たちが自己の内に新たな個性、適性を発見して、それをのばしていける可能性を保証すべきである。

3. 学生のもつ多様性をもたらす様々な問題への対応策を考えていく上では、多様化がすでに始まっているという認識を共有すべきである。そして、対応策を考えるにあたっては何よりも、学生たちが目的を持って、つまり希望や意欲や興味を持って学業に取り組むようにすること、すなわち、学生たちへの「動機付け」を重視しなければならない。「動機付け」を重視するということは、つまりは教員が、個々の学生たちとよく対話し、学生たちの多様な希望や個性、適性をきめ細かく把握した上で適切に指導できる体制を実現しようとするに他ならない。そのような指導体制がいくらからでも実現できてはじめて、学生の一人一人が自らの目的・希望の実現を目指して意欲的に学業に取り組むことが可能になる。たとえ理想的なカリキュラムを実現できたとしても、学生に学ぶための動機がなければ、カリキュラムは画餅に等しきものになってしまうのである。

Ⅲ. 具体的な提案

4. 大学入学以前の既修科目の多様化や学力の多様化へ

の対応策を講じる場合に、似通った就学目的を共有するまとまった数の学生を一定の水準に到達させるように教育内容を段階的に設定できる学部と、学生一人一人がそれぞれの目的や興味を持っており個別に対応しなければならないことの多い学部とでは、対処方法も一律ではありえない。以下の提案は、むしろ方向付けといった性格のものとならざるをえない。各学部と教養教育委員会が本提案を重く受け止め、それぞれの特性や現状に相応しい仕方で、緊急度が高いと判断されるものから順次、着実に具体化していくことを、強く希望する。具体化していく過程では必要に応じて、全学的に支援体制を取るべきであり、学部間で協力し合うべきである。

5. 学生の多様性に対処するためには、何よりもまず1年次の的確に対応することが重要である。入学時に、①学生たちにカリキュラムの意味や、授業の選び方、授業への取り組み方をきめ細かく指導できるようなオリエンテーションを実施し、その上で1年次前期に、②教員が学生と一緒に本を読んだり身近な問題について議論したりしながら人間的交流をも図り、学生の授業履修や学生生活全般に関して適切な助言を行い、学生生活へのスムーズな導入を図る機会をつくる必要がある。

①については、現行の入学時のオリエンテーションを改善することで対処すべきである。

②については、各学部の責任で少人数のゼミを創設し、専門教育と教養教育の双方を視野に入れた「導入的」教育を実施することが考えられる。それに現行の「助言教員(官)制度」に相応する性格をもたせても良い。

さらに、適当な時期に学部や学科単位で合宿オリエンテーションなどを実施し、学生と教員が親密な交流を集中的に行うことが考えられるが、これは①②の両方に関わりうる。

6. 学生たちが履修計画を立てたり、教員が授業履修について学生に助言をしたりするためには、予め授業に関して十分な情報が公開されている必要がある。また教員が相互に授業内容・計画を知らせ合い、それに基づいて授業内容・計画を調整し、授業を、ひいてはカリキュラムを効果的・効率的に実施し整備していくことも大切である。「シラバス」が必要な所以である。^{※3}

現在本学で作成されている「授業案内」や「講義要綱」は、記述項目については大学審議会の【答申】が

定める「シラバス」のそれをほぼ満たしているが、項目によっては十分に書き込まれていなかったり、記述の精粗に個人差がはなはだしかったりする。全学の教員が「シラバス」作成の意義を正しく理解し、記述内容を意義に相応したものとするように、各学部と教養教育委員会はいっそう努力すべきである。「シラバス」を大きさや厚さの点も含めて継続的に点検し、学生が使いやすいように、さらに向上させていく作業は後述の「FD」の一環として行うことが適当である。

なお、本学の教育内容について広く学外に精確に広報するためには、「シラバス」をホームページで公開することが有効である。

7. 大学が教育機関である以上、「FD」すなわち「教授能力の開発」^{#4}の重要性は決して否定できないし、これまで以上に積極的・精力的に取り組まなければならない。しかし、大学審議会の【答申】も認めているように、その含意するところは広範にわたり、しかも理論や方法論に関する議論は次第に活発になってきている状況にある。現状ではとりあえず「FD」は「教員の教育能力の向上」と捉えられるべきである。その上で、各学部と教養教育委員会がそれぞれ「FD」を扱う組織（委員会、作業部会等）を設置するか既設の委員会等に兼務させるかして、資料収集や研究・研修を精力的に行い、それぞれの部局の特性や事情に相応しい仕方でも継続的に取り組むべきである。なお、それらの組織に対して例えば教務委員会などの全学的組織が、全学的な規模で講演会や研修会を実施したり連絡調整にあたるなどの支援を行う体制を整える必要がある。

各学部および教養教育委員会に設置される「FD」のための組織が検討すべき事項を以下に挙げる。

- ①授業方法の工夫・改善の方策の検討（教員相互の授業参観、研究会、研修会、講演会等の開催など）
- ②（予習・復習を含む）授業の厳正化ならびに成績評価の厳格化
- ③「シラバス」の充実とそれに即応した授業の充実の実現

^{#3} 「シラバスの活用」

個々の授業の質の向上を図るに当たっては、効果的なシラバスの活用が重要である。現在、各大学で作成されているシラバスの多くは、全学的にあるいは学部・学科ごとに履修科目選択のための一覧として作成されていることが多い。しかしながら、個々の授業の質の向上のためには、個々の教員がその授業科目を履修する学生を対象として、毎回の授

業を迎えるに当たってあらかじめ読んでおく文献の指示等準備学習の指示や成績評価基準などを示したシラバスを作成することが重要である。」（大学審議会【答申】54頁）

^{#4} 示村悦二郎、「教授能力の開発（Faculty Development）」は、狭い意味では教師個人の教授能力開発をさすが、同時にそれは学科、学部、あるいは大学全体の問題でもある。なぜなら、一つひとつの学科目はカリキュラムの体系の中であり、カリキュラムは学科、学部などの組織の一部であり、その運営は大学全体の運営と表裏一体であるからである。よりよいカリキュラムを開発すること、よりよい教育を可能とするための管理・運営の方法を開発することも、広い意味のFD（Faculty Development）の一部である。」（FDプログラム小委員会編『FDハンドブック』、財団法人大学セミナー・ハウス、増補改訂版、1993年刊、10頁）

- ④授業科目の検討（カリキュラムの合理化・効率化、学生の多様化に対応したカリキュラムの工夫をも含む）
- ⑤補習的授業の位置づけや見直し
- ⑥学生による授業評価の実施
- ⑦教員の教育実績を評価する方法の検討

8. いったん何らかの目的を持って入学した学生が真摯に学生生活をおくる過程で、それまで気付かなかった自らの適性や個性を発見し、あるいは新たな知的興味を覚え、そのため就学目的を変え、所属する学科や学部を変更することを希望したり、他学部の授業の履修を希望したりすることは、学生たちの年齢からして当然のことであり、容認すべきことでもある。そのためには、転学科、転学部、他学部履修などの制度が十分に機能している必要がある。本学では今年度、転学科・転学部についての「申し合わせ」を見直したところであるが、今後も適宜点検し、より適切な制度を確立すべきである。他学部履修については、制度の見直しも必要であるが、各学部の適当な場所に、本学の全「シラバス」と全時間割を常時閲覧できるようにしておくことも有効であろう。

9. 学生たちの就学目的の一つに就職が含まれることは否定しがたい事実である。入学後速やかに、公務員などの就職試験や就職に有利な資格取得に関して、学部や全学でガイダンスを実施し、正確できめ細かな、具体的な情報を与えることも重要である。そのような情報を得た上で、その後の学生生活に臨むことは、希望に沿った就職を実現するために大いに有効である。なお全学的なガイダンスに関しては、就職連絡会議など

の全学的組織が、各学部および教養教育委員会と協力しつつ企画立案し実施する必要がある。

IV. 残された問題

10. 最後に、今後、何らかの機関で全学的に検討すべきいくつかの点を付記しておく。

①卒業要件単位の見直しの当否、②（大学入学以前の既修科目の多様性に対応するために）入試科目の見

直しの当否、③（大学入学以前の既修科目の多様性や学力の多様性に対応するために）補習的授業の実施体制の検討、④（特に教養教育における）授業の適正履修者数の問題、⑤他大学との単位互換の推進の当否
以上

平成12年2月1日

教務委員会

教養教育委員会

平成12年度入学者選抜個別学力検査（前期日程）を実施

－昨年より528人少ない2,582人が受験－

平成12年度入学者選抜個別学力検査（前期日程、専門高校・総合学科卒業生選抜）が、2月25日（金）各学部検査場において実施されました。

当日は、青空がかいま見える好天となる一方、夜半の降雪が道路上では圧雪となり、交通機関に若干影響がありました。本学では検査開始2時間前にすでに受験生の姿が見え始め、受付開始の午前9時には各検査場前は受験生でいっぱいとなりました。

検査は、日程に従い静粛に実施され、前期日程及び専門高校・総合学科卒業生選抜（個別学力検査を課さない経済学部夜間主コースを除く。）の志願者2,715人のうち2,582人が受験（受験率95.1%）しました。また、私費外国人留学生特別選抜も併せて実施され、39人が受験しました。

なお、前期日程、後期日程及び私費外国人留学生特別選抜の志願者は次表のとおりです。



▲ 試験開始を待つ受験生（教育学部検査場）

平成12年度富山大学入学志願状況表【確定】

平成12年2月7日

学部	学科・課程等		平成12年度									平成11年度			備考	
			前期日程			後期日程			両日程合計			両日程合計				
			募集人員 (人)	志願者数 (人)	倍率 (倍)											
人文学部	人文学科		42	197	4.7	15	173	11.5	57	370	6.5	57	309	5.4		
	国際文化学科		32	105	3.3	12	109	9.1	44	214	4.9	44	200	4.5		
	言語文化学科		51	191	3.7	20	222	11.1	71	413	5.8	71	443	6.2		
	計		125	493	3.9	47	504	10.7	172	997	5.8	172	952	5.5		
教育学部	学校 教育 教員養成 課程	学校教育系	16	41	2.6	7	60	8.6	23	101	4.4	-	-	-	平成11年度改組により、学部合計のみ計上	
		障害児教育系	5	12	2.4	2	12	6.0	7	24	3.4	-	-	-		
		言語・社会系	18	45	2.5	7	69	9.9	25	114	4.6	-	-	-		
		自然・生活系	19	47	2.5	6	49	8.2	25	96	3.8	-	-	-		
	生涯 教育 課程	発達臨床専攻	5	12	2.4	3	19	6.3	8	31	3.9	-	-	-		
		生涯スポーツ専攻	4	17	4.3	3	37	12.3	7	54	7.7	-	-	-		
		人間環境専攻	14	34	2.4	6	45	7.5	20	79	4.0	-	-	-		
	調整 課程	教育情報システム専攻	10	14	1.4	4	19	4.8	14	33	2.4	-	-	-		
		マルチメディア芸術専攻	4	10	2.5	2	15	7.5	6	25	4.2	-	-	-		
	計		103	268	2.6	44	380	8.6	147	648	4.4	147	703	4.8		
経済学部	日間 コース	経済学科	100	289	2.9	31	194	6.3	131	483	3.7	131	650	5.0		
		経営学科	76	283	3.7	24	175	7.3	100	458	4.6	100	430	4.3		
		経営法学科	64	200	3.1	20	209	10.5	84	409	4.9	84	645	7.7		
		小計	240	772	3.2	75	578	7.7	315	1,350	4.3	315	1,725	5.5		
	夜間 コース	経済学科	3	19	6.3	7	51	7.3	10	70	7.0	6	41	6.8		
		経営学科	3	37	12.3	7	75	10.7	10	112	11.2	7	67	9.6		
		経営法学科	3	27	9.0	7	53	7.6	10	80	8.0	7	69	9.9		
		小計	9	83	9.2	21	179	8.5	30	262	8.7	20	177	8.9		
	計		249	855	3.4	96	757	7.9	345	1,612	4.7	335	1,902	5.7		
	理学部	数学科		28	121	4.3	6	38	6.3	34	159	4.7	34	198		5.8
物理学科		26	53	2.0	6	26	4.3	32	79	2.5	32	80	2.5			
化学科		22	56	2.5	7	34	4.9	29	90	3.1	34	173	5.1			
生物学科		23	81	3.5	5	39	7.8	28	120	4.3	28	180	6.4			
地球科学科		29	100	3.4	9	47	5.2	38	147	3.9	38	154	4.1			
生物圏環境科学科		19	54	2.8	5	31	6.2	24	85	3.5	24	133	5.5			
計		147	465	3.2	38	215	5.7	185	680	3.7	190	918	4.8			
工学部	電気電子システム工学科		52	183	3.5	18	115	6.4	70	298	4.3	73	275	3.8		
	知能情報工学科		45	120	2.7	16	56	3.5	61	176	2.9	62	335	5.4		
	機械知能システム工学科		52	122	2.3	17	94	5.5	69	216	3.1	72	405	5.6		
	物質生命システム工学科		93	262	2.8	28	323	11.5	121	585	4.8	128	397	3.1		
	小計		242	687	2.8	79	588	7.4	321	1,275	4.0	335	1,412	4.2		
	専門 高校・ 総合 学科 卒業 生 選抜	電気電子システム工学科		2	5	2.5				2	5	2.5	2	7		3.5
		知能情報工学科		2	15	7.5				2	15	7.5	2	17		8.5
		機械知能システム工学科		2	6	3.0				2	6	3.0	2	7		3.5
		物質生命システム工学科		2	4	2.0				2	4	2.0	2	7		3.5
		小計		8	30	3.8				8	30	3.8	8	38		4.8
計		250	717	2.9	79	588	7.4	329	1,305	4.0	343	1,450	4.2			
合計		874	2,798	3.2	304	2,444	8.0	1,178	5,242	4.4	1,187	5,925	5.0			

平成12年度富山大学入学者選抜私費外国人留学生入学志願者数【確定】

平成12年 2月 7日

学部・学科(課程)等		志願者数(人)		備 考	
		平成12年度	平成11年度(参考)		
人文学部	人文学科	1	3		
	国際文化学科	7	1		
	言語文化学科	4			
	計	12	4		
教育学部	学校教育 教員養成 課程	学校教育系		平成11年度改組により、 学部合計のみ	
		障害児教育系			
		言語・社会系	1		
		自然・生活系			
	生涯教育 課程	芸術・体育系	1		
		発達臨床専攻			
		生涯スポーツ専攻			
	情報教育 課程	人間環境専攻			
教育情報システム専攻		1			
	マルチメディア芸術専攻				
計	3	1			
経済学部	昼間主 コース	経済学科	4	5	
		経営学科	19	11	
		経営法学科		3	
	計	23	19		
理学部	数学科	1			
	物理学科				
	化学科				
	生物学科				
	地球科学科				
	生物圏環境科学科				
計	1				
工学部	電気電子システム工学科	4	2		
	知能情報工学科	9	2		
	機械知能システム工学科	2	4		
	物質生命システム工学科				
計	15	8			
合 計	54	32			

【参考】

国籍別志願者数

年 度	中 国	韓 国	マレイシア	イ ラ ン	スリランカ	ヴェトナム	合 計
H12	47	3	2	1	1		54
H11	27	2	2			1	32

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
昇 任	12. 3. 1	小野 直子	講 師 人文学部 (国際文化学科国際文化論)	助教授 人文学部 (国際文化学科国際文化論)
	〃	唐 政	助教授 宮崎大学 工学部	教 授 工学部 (知能情報工学科メディア情報工学) (~15. 2. 28)
	〃	廣林 茂樹	講 師 工学部 (知能情報工学科システム工学)	助教授 工学部 (知能情報工学科知能システム工学)
臨時的任用	12. 2. 21	高野智恵美		人文学部・理学部学務第二係 (~12. 12. 22)
休 職	12. 3. 1	松井 博文	庶務部企画室企画係庶務主任	期間更新 (~12. 5. 31)
辞 職	12. 2. 18	高野智恵美	事務補佐員 (人文学部・理学部)	辞 職
退 職	12. 2. 19	近藤 俊彦	事務補佐員 (附属図書館情報サービス課)	平成12年2月18日限り退職
	〃	高山 恭一	〃 (〃)	〃
	〃	甲斐 英高	〃 (〃)	〃
	〃	加藤 奏	〃 (〃)	〃
	〃	望月 昇	〃 (〃)	〃
	〃	本江 隆典	〃 (〃)	〃
	〃	鈴木 信也	〃 (〃)	〃
	〃	神代 智子	〃 (〃)	〃
育児休業	12. 2. 21	中村 良恵	人文学部・理学部学務第二係	育児休業 (~12. 12. 22)
併 任	12. 2. 20	小谷 伸男	教 授 人文学部	附属図書館長・評議員 (~14. 2. 19)
死 亡	12. 2. 3	佐々木 浩	教 授 教育学部 (国語教育)	死亡 (公務外)

学 内 諸 報

産官学懇談会を開催 — 地域共同研究センター —

地域共同研究センターでは、2月2日、大学と地域社会との連携の窓口としてその役割をさらに進展させるため、産官学懇談会を工学部大会議室において開催しました。

今年で4回目を数える同懇談会は、全国に同種のセンターがくまなく設立され、またセンターを取り巻く環境が激変している昨今、地域に根ざした特色ある共同研究センターを構築するための方策を具体的に提言願うことを目的に企画されました。

今回は、文部省から学術国際局研究助成課山田研究協力室長を迎え、地元産業界から企業経営者等7人、富山県から商工労働部次長等2人、本学からは、時澤学長を

はじめとして4人が出席しました。

懇談会は、時澤学長の挨拶の後、山田室長から産学連携に係わる文部省施策の説明があり、引き続き、センターの外部評価として設立後13年間の活動状況に対する率直な意見・要望等が議論されました。

次いで、地域社会に開かれたセンターの構築を目指すためのより具体的な方策や、社会的ニーズに応えるためのセンターのあり方、技術移転機構の立ち上げの方策等について、熱心に意見交換が行われ、多くの貴重な意見、提言がありました。なお、懇談会の出席者は次のとおりです。

(産業界)

711軽金属株式会社代表取締役副社長	磯貝 光之
YKK株式会社取締役副社長	北野 芳則
大平洋製鋼株式会社代表取締役社長	佐藤 祐一郎
株式会社スギノマシン代表取締役会長	杉野 博
富士薬品工業株式会社代表取締役社長	竹田 雄一郎
北陸電力株式会社取締役工務部長	長坂 秀雄
立山科学工業株式会社取締役顧問	松岡 俊治

(官 界)

富山県商工労働部次長	豊國 浩治
富山県工業技術センター所長	南日 康夫

(学 界)

文部省学術国際局研究助成課研究協力室長	山田 道夫
---------------------	-------

富山大学 学長

工学部長	時澤 貢
事務局長	宮下 尚
地域共同研究センター長	水上 修一
	女川 博義

(以上14名)



▲未来のセンターについて熱心に懇談

第3回学術シンポジウムを開催 — 環日本海地域研究センター —

環日本海地域研究センターでは、アジア危機以降の環日本海地域の変容と展望を探ることを目的として、第3回学術シンポジウムを2月4日市内名鉄トヤマホテルにおいて開催し、県内国際交流団体、企業関係者等約80人が参加しました。

シンポジウムは2部で構成され、丹羽センター長、時澤学長の挨拶の後、第1部では、高橋 宏 東京国際大学経済学部教授から「北東アジアの経済成長と域内貿易拡大—地域協力の促進に向けて—」と題した基調講演が行われ、地域協力のための包括的プログラムの樹立、環境等も含む総合的な研究枠組みの整備及び行政・政治面での理解・協力等について提言がありました。

第2部は3つの分科会に分かれて実施され、経済開発分科会では「アジア危機以降の環日本海地域経済の変容」

を、環境開発分科会では「21世紀に向けた環日本海地域の持続的発展の展望」を、社会開発分科会では「21世紀のロシアの科学・教育のゆくえ」をそれぞれテーマとして、活発な議論が行われました。



▲シンポジウム第1部—基調講演—

セクシュアル・ハラスメント相談員研修を実施

事務局では、2月16日、大会議室において、「富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針」に基づき設置された相談員（教職員18人）の研修を実施しました。

この研修は、教職員や学生等の相談に対し適切に対応するため、相談員が基礎的な知識・心構えを習得することを目的としたもので、セクシュアル・ハラスメント等対応委員会委員2名（保健管理センター教員）により、相談の部屋（場所）の確保、部屋の雰囲気、相談員の態度等相談の受け方、注意点等について具体的な講義が行われました。



▲研修中の相談員

なお、講義終了後には、真剣な討議・意見交換も行われ、有意義な研修となりました。

また、セクシュアル・ハラスメント等対応委員会においては、上記指針に基づき、このほどパンフレット「セクハラ・いじめ お断り！」を作成し学内に配付する等、教職員、学生に対する啓発活動を始めています。

セクハラ・いじめ お断り！

被害にあったと思ったら相談員へ



* 防止の対象行為は、セクシュアル・ハラスメントといじめです。
* 相談員で構成するセクシュアル・ハラスメント等対応委員会は各学部・部局とは独立して相談内容について調査・検討いたします。

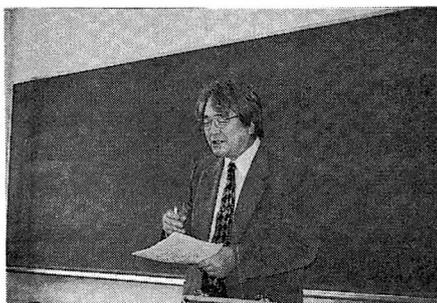
富山大学セクシュアル・ハラスメント等対応委員会

▲パンフレット表紙

退官記念最終講義を実施 - 教育学部 -

本年 3 月末を以て退官される教授の最終講義が教育学部で行われ、多数の学生、教職員、OBが出席し、終始

熱心に聴講しました。



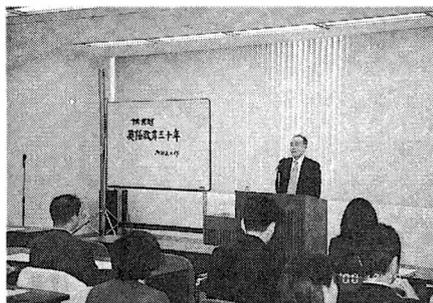
▲教育学部 栗原 幹夫 教授

日時；2月10日 15時から

場所；教育学部12番教室

題目；積み木並べで解く

算数・数学



▲教育学部 加瀬 正二郎 教授

日時；2月19日 15時から

場所；黒田講堂会議室

題目；英語教育30年の役割



▲教育学部 山極 隆 教授

日時；2月20日11時から

場所；教育学部16番教室

題目；教育改革と地方教育行政

インターンシップ推進協議会を開催 - 工学部 -

工学部では、1月28日大会議室において、「工学部インターンシップ推進協議会」を開催しました。

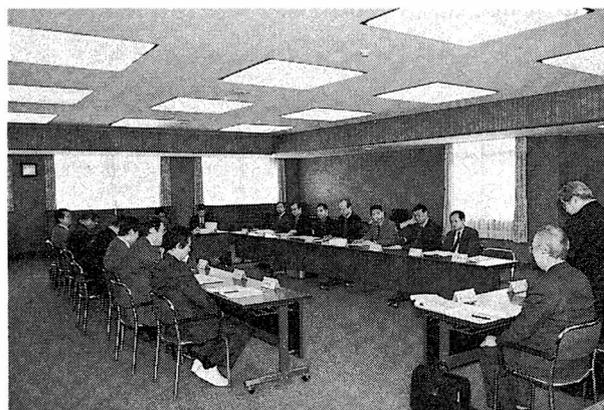
学生が実際に企業等に入って、会社組織の仕組みや人間関係等を肌で確かめる機会をつくり、教育の一層の充実を図るため、今年度から初めて実施されたインターンシップには、3年次生23名が参加し、14社で1週間から2週間の就業体験を行いました。

今回の協議会には、受入企業の担当者14人と工学部から宮下工学部長をはじめ13人が出席し、今年度の反省点と来年度に向けての要望等が協議されました。「学生にはしっかりと目的意識を持って参加してほしい」といった厳しい注文もある一方、すべての企業から「来年度以降も積極的に受け入れたい」との回答がありました。工学部では本協議会における貴重な意見を参考に、今後も企業と協力しながらインターンシップを継続して実施する予定です。

なお、今年度のインターンシップ受入企業は、次のとおりです。

(株)インテック
シーケー金属(株)
十全科学(株)
立山科学工業(株)

立山マシン(株)
津根精機(株)
富山化学工業(株)富山事業所
富山県工業技術センター
富山日本電気(株)
(株)富山富士通
(株)不二越
北陸コンピュータサービス(株)
北陸電力(株)地域総合研究所
マクセル北陸精機(株)八尾工場



▲インターンシップ推進協議会の模様

(海) (外) (渡) (航) (者)

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	人文学部	講師	林 夏生	大韓民国	韓国の外交政策及び文化行政に関する調査	12. 2. 5) 12. 2. 12
	理学部	助教授	藤 浩明	連合王国	地球内部電磁誘導の精密計算法に関する研究打合せ, 資料収集	12. 2. 12) 12. 3. 18
	教育学部	教授	奥村 義雄	連合王国	地方都市における階級・階層構造と地域的・社会的移動の実証的研究に関する調査, 資料収集	12. 2. 13) 12. 2. 26
	教育学部	助教授	堀田 龍也	連合王国 ナ ダ	情報教育カリキュラムと教材開発・流通方法及び教師教育に関する動向調査	12. 2. 20) 12. 4. 14
	工学部	教授	宮下 尚	ロシア連邦 イ ツ 連 邦	学術交流協定締結, 視察	12. 2. 26) 12. 3. 6
	工学部	教授	上羽 弘	ロシア連邦 イ ツ 連 邦	学術交流協定締結, 視察	12. 2. 26) 12. 3. 11
	経済学部	助教授	小畑 史子	スウェーデン アメリカ合衆国	「労働補償制度の国際比較研究」に係る調査	12. 2. 26) 12. 3. 18
	人文学部	教授	鈴木 信昭	大韓民国	朝鮮西学史・天主教史に関する史料調査・収集	12. 2. 28) 12. 3. 5
	経済学部	講師	堀江 典生	ロシア連邦	シベリアを中心としたロシア地域経済の変容に関する研究	12. 2. 28) 12. 3. 16
海外研修	経済学部	助教授	岩内 秀徳	アメリカ合衆国	「植民地政策における多国籍企業の位置づけ」に関する資料収集	12. 2. 13) 12. 3. 4
	人文学部	講師	小野 直子	アメリカ合衆国	アメリカ医療史関係史料収集	12. 2. 28) 12. 3. 11
	人文学部	外国人教師	キャレン・フェ ダーフォルト	連合王国	研究打合せ及び文献収集	12. 2. 29) 12. 3. 30

(外) (国) (人) (来) (訪) (者)

氏名 (国籍)	本国における 所属機関・職名	来学目的	本学受入先	期間
趙 国慶 (中国)	中国人民大学信息 学院副院長, 副教授	第3回環日本海地域研究センター主催学術シンポジウムに講師として参加	環日本海地域 研究センター	12. 2. 4
A.S.Berdinsky (ロシア連邦)	ノボシビルスク国立 工科大学工学部助教授	第3回環日本海地域研究センター主催学術シンポジウムに講師として参加	環日本海地域 研究センター	12. 2. 4

職 員 消 息

《住所変更》

部 局	職	氏 名
経済学部	助 教 授 (オペレーションズ・リサーチ)	横 山 一 憲
工学部	助 手 (電子物性デバイス工学)	森 雅 之

訃 報

2月に、現職お一人がお亡くなりになりました。
 ここにご報告するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



佐々木 浩 氏
 (教育学部教授)
 2月3日逝去
 享年59歳

主 要 行 事

本 部

- 2月1日 第7回学生生活協議会
 第2回教務委員会・教養教育委員会合同委員会
 第8回教養教育委員会
 学内監査担当者説明会
 東海北陸地区国立学校等施設担当部課長会議
 (名古屋大学)
- 2日 第1回保健管理センター委員会
 第5回セクシュアル・ハラスメント対応等委員会
 就職に関する講演会
 (第1部)
 演題；地方公務員・富山県職員採用試験等

の概要について

講師；清水 優 富山県人事委員会事務局
 任用課長

(第2部)

演題；教員需給の現状と教職を目指す人に
 講師；加藤敏久 富山県教育委員会教職員
 課主幹

3日 第12回自己点検評価委員会管理運営専門委員会
 第17回将来計画委員会

行政財産使用状況ヒアリング(富山財務事務所)

4日 国立大学学生部長・学生指導担当副学長会議
 (東海大学交友会館)

4～10日 学内会計監査

5日 人文学部推薦入学合格発表

- 7日 第13回自己点検評価委員会管理運営専門委員会
第2回国際交流委員会学術交流部会
R I総合実験室運営委員会
- 8日 第3回入学試験実施委員会
- 10日 後学期授業終了
- 15日 第11回事務協議会
学生生活協議会文化部会・体育部会合同会議
体育施設委員会・体育施設運営協議会合同会議
学生生活協議会,学寮委員会及び体育施設委員会合同会議
第3回学園ニュース編集委員会
- 16日 セクシュアル・ハラスメント相談員研修会
大学等と企業による就職情報交換会(金沢東急ホテル)
第11回国際交流委員会留学生部会
教務委員会教職科目専門委員会
- 17日 推薦入学,帰国子女・社会人特別選抜合格者入学手続き
R連盟富山地区ボウリング大会(富山地铁ゴールデンボウル)
- 18日 第4回部局長会議
第16回評議会
第18回将来計画委員会
第1回教育研究基盤校費検討委員会
- 21日 第12回自己点検評価委員会教育活動専門委員会
第3回就職連絡会議
- 22日 第5回国際交流会館運営委員会
第1回教養教育検討特別委員会
- 23日 医療状況実態統計調査及び動態統計調査説明会(KKR金沢)
- 24日 第3回国際交流委員会学術交流部会
第122回構内交通対策委員会
第2回保健管理センター委員会
ハローワーク富山産業雇用連絡協議会(富山県民会館)
富山県高等教育振興財団連絡委員会(富山県民会館)
- 25日 平成12年度入学者選抜個別学力検査(前期日程)
- 26日 教養教育スキー実習(~3月1日)
- 28日 第18回評議会(臨時)
第19回将来計画委員会

人文学部

- 2月2日 独立大学院研究科(博士課程)設置に関する人文学部と経済学部の合同委員会
学部将来計画委員会
- 4日 教授会
- 8日 学部図書委員会
学部将来計画委員会
学部広報委員会
- 9日 教授会
教授会(人事)
研究科委員会
- 14日 学部国際交流委員会
- 15日 学部教務委員会
- 17日 学部予算委員会
- 21日 学部将来計画委員会
- 23日 学部学生生活・就職指導委員会
学部情報処理委員会
教授会
教授会(人事)
研究科委員会
- 25日 平成12年度入学者選抜個別学力検査(前期日程)

教育学部

- 2月2日 学部予算委員会
附属小学校入学者第2次選考(抽選)
- 3日 附属中学校入学者第2次選考(抽選)
- 4日 附属幼稚園避難訓練
- 8日 学部教務委員会
- 9日 平成12年度教育学研究科入学者選抜試験(第2次募集)
教授会
人事教授会
- 16日 研究科委員会小委員会
教授会(臨時)
研究科委員会
- 18日 教育学研究科合格者発表(第2次募集)
附属養護学校教育実践研究会
- 21日 附属養護学校避難訓練
- 23日 学部入学試験委員会
- 25日 平成12年度入学者選抜個別学力検査(前期日程)

経済学部

- 2月1日 総務委員会
 2日 独立大学院博士課程設置に伴う合同打合せ会
 将来構想等検討委員会
 8日 学部教務委員会
 9日 人事教授会
 教授会
 14日 将来構想等検討委員会
 21日 環日本海地域研究センター運営委員会
 22日 学部教務委員会
 23日 人事教授会
 研究科委員会
 教授会
 25日 平成12年度入学者選抜個別学力検査（前期日程）
 29日 学部入学試験委員会

理学部

- 2月2日 学科長会議
 4日 理工学研究科博士前期課程理学部会教務検討
 小委員会
 8～9日 理工学研究科博士前期課程入学試験（第2次）
 9日 学部施設委員会
 10日 学部教務委員会
 14日 学部自己点検評価委員会
 16日 理工学研究科博士前期課程理学部会
 教授会
 人事教授会
 理工学研究科博士後期課程部会
 22日 学部排水安全委員会
 24日 学科長会議，学部将来計画委員会との合同
 委員会
 学科長会議
 学部教務委員会，学部教育実習委員会との合
 同委員会
 学部施設委員会
 25日 平成12年度入学者選抜個別学力検査（前期日
 程）

工学部

- 2月3日 外部評価実施委員会
 4日 学部案内編集委員会
 7日 将来計画に係る検討委員会
 学部運営委員会
 係長連絡会
 9日 教授会
 専任教授会
 10日 会計内部監査
 15日 学部教務委員会
 16日 教授会
 理工学研究科博士前期課程工学部会
 理工学研究科博士後期課程部会
 学部施設整備委員会
 23日 温交会役員会
 24日 将来計画に係る検討委員会
 25日 平成12年度入学者選抜個別学力検査（前期日
 程）

地域共同研究センター

- 2月2日 産官学懇談会
 4日 第8回運営委員会
 14日 大学院生教育講座
 24日 第9回運営委員会
 大学院生教育講座

生涯学習教育研究センター

- 2月3日 第3回運営委員会
 17日 第3回公開講座専門委員会

総合情報処理センター

- 2月14日 第2回広報研修専門委員会

編 集 富山大学庶務部庶務課 〒930-8555富山市五福3190 TEL.(076)445-6007 FAX.(076)445-6014
 印 刷 あけぼの企画(株) 〒930-0031富山市住吉町1-5-8 TEL.(076)424-1755 FAX.(076)423-8899